

## 4/25 出エジプト記 1 章 15 節-2 章 10 「その子をモーセと名づけた」

小池 宏明 牧師

今週から出エジプト記から聞いていく。主なる神様はアブラハムの子孫が「大いなる国民(くにたみ)となる」と約束され、その約束はイサク、ヤコブ (イスラエル) へと受け継がれ、実現して行くことになる。世界的食糧危機のために、ヤコブの部族 70 名が大臣になったヨセフを頼りエジプトに移住し、部族から民族へと急速に増え広がった。エジプトの王はイスラエルを奴隷にして重い労役を加えたが、イスラエルの民は主なる神様から祝福され、ますます強く増え広がった。

### \*神を畏れる助産師たち

恐怖を抱いたエジプトの王は、イスラエル人の助産婦に「妊婦が子どもを産んだとき、男の子は殺せ、女の子は生かしておけ」と命じたが、主を畏れる彼女たちは、王の命令に従わなかった。彼女たちの信仰は、神様の祝福を受け、語り継がれることになる。(20、21 節)

### \*レビ人夫婦の信仰

エジプトの王は、イスラエルの民を減らすために、すべての人々に、イスラエル人が産んだ子どもを見つけたら、「男子はナイル川に投げ込め、女子は生かしておけ」と命じる。(21 節) ところが、信仰を持って王の命令に反する者たちがいた。2 章では、レビ人の夫婦が、その命令に従わなかった。新約聖書へブル人への手紙の 11 章 23 節には「信仰によって、モーセは生まれてから三か月の間、両親によって隠されていました。彼らがその子のかわいいのを見、また、王の命令を恐れなかったからです。」とある。

しかし、三ヶ月も経てば、産まれた男の子を隠し通せるはずがない。モーセの父と母は、防水加工したパピルス製のかごに子どもを入れて、ナイル川の葦の茂みに置いた。彼らは最善を尽くして、信仰を持って我が子を主に委ねた。そうしたら、主は憐れんで下さり、その子モーセが王の娘のもとで守られながら育つように導いて下さった。信仰を持って主なる神様に委ねたその先に、主の絶妙なタイミングで、救いの御業が成されていくのだ。

### \*主の御用に用いられる私たちがでありたい

マザー・テレサは、その働きを称賛する人々に対し「私は神の御手に握られている鉛筆である」と語った。彼女は自分が主なる神様の御心のままに用いられる道具に過ぎないと言うのだ。主なる神様は「私」という「鉛筆」を用いて、どのような絵を描いて下さるだろうか。私たちの教会が、私たち一人ひとりが、主の御用のために豊かに用いられるように願い求めよう。